

キャリア形成支援学生カルテ (CASK)

－ポートフォリオの有効活用をめぐる－

Aiming for an Effective Use of Portfolio in Career Student Karte (CASK)

岡野 啓介 ・ 兼 重 宗 和 ・ 石 川 英 樹

分野：キャリア教育

キーワード：キャリア教育、学生データベース、ポートフォリオ

概要：サイバーキャンパスを背景に構築された学生データベースCASKは、(1) 学生カルテ、(2) ポートフォリオ、そして (3) 学生と教職員の双方向コミュニケーションの3つの機能を持ち、学内の全教職員が協力して学生のキャリア形成を支援する体制の確立に供するものである。この小論の前半では、CASKの諸機能についてのまとめと平易な解説をおこなう。後半では、本論の執筆と並行して改良を加え、装い新たになった“**CASKキャリアポートフォリオ**”に焦点をあて、そのねらいから利用法の詳細にいたるまでの解説をおこなう。改良されたポートフォリオは、【行：エントリーシート項目】×【列：学生生活における気づき】のマトリックス構造のインターフェイスを持つ。15列からなる各系列には、それぞれ一つのレポートのテーマが割り振られている。学生は各自の学生生活で遭遇した種々の局面において「自分を見つめ考えた内容」を、これらのテーマに応じて、書き込んでいく。また、8行からなるマトリックスの各【項目】には、学生生活の集大成期（就職活動期）に必須となる自己表現（エントリーシート執筆、等）において、頻繁に執筆を要求される事項が割り振られ、関連の深いテーマを持つ【系列】と「○」印によって結びつけられる構造になっている。このような構造を持つインターフェイス・マトリックスを学生データベースCASKと連動させることによって、徳山大学キャリア形成支援の高質化と効率化を提案する。

§ 1. はじめに

昨年、徳山大学は創立40周年を迎え、10年後の創立50周年を期とした『**地域に輝く大学**』の確立を誓って、新たな教育改革の一步を踏み出した。そして10年後に向け、本学が目指すべき教育改革のキーワードにあげたのが、「**キャリア教育**」である。グループや社会における「**自分の価値や役割**」を見出しその「**役割の遂行**」をとおして「**自分らしい生き方**」を実現していく、その過程の積み重ねが「**キャリア**」であり、生涯にわたる各自のキャリア発達を自分自身で考え、促せるようにするため、必要となる基盤的能力や態度を育てるのが真の「**キャリア教育**」である。将来への不透明さが増幅する現代社会のなかで、今、このキャリア教育の重要性が叫ばれている。

前回執筆の研究ノート【1】にまとめたように、本学のキャリア教育体系は、(i) EQ教育をとおした人間力育成とそれを基盤とする各種キャリア教育系科目群、(ii) (教養・専門)ゼミ担当教員、ダブルアドバイザー、教務部・学生支援センター職員がタッグを組んでの懇切丁寧な個別指導、そして(iii) 上記の(i)および(ii)を有機的に結びつけ相乗的に機能させることを目指して構築されたキャリア形成支援学生データベース“CASK (キャスク; CAreer Student Karte)”，を中心として構成されている。

また、この本学のキャリア教育体制の背景的インフラとなっているものにサイバーキャンパスがある。将来の情報社会におけるキャリア形成にとって重要となるICT活用能力の育成に重点を置き、学内IT環境を整備すると共に、学習管理システム(LMS¹⁾)と‘e-learning’の手法を活用した教育改革を進めてきた。そのサイバーキャンパス上に構築された学生データベースCASKは、(1) 学生カルテ、(2) ポートフォリオ、そして(3) 学生と教職員の双方向コミュニケーションの3つの機能を持ち、学内の全教職員が協力して学生のキャリア形成を支援する体制の確立に供するものである。

このノートでは、CASKの諸機能のまとめと解説をおこなうと共に(§ 2)、特にそれが内包する機能「ポートフォリオ」に焦点をあて、そのねらいや構

1) Learning Management System の略。

築にあたってのコンセプトから具体的利用法（使用マニュアルを兼ねる）の詳細にいたるまでのレビューをおこない（§ 3および§ 4）、全学的な利用促進の一助とすることを目的とする。また現状では、このポートフォリオのインターフェイスに関しては、まだまだ改良の余地が多く残されていると言わざるを得ない。この小論をとおして、今後の改良点等を浮き彫りにしていきたい。

§ 2 キャリア形成支援学生データベース“CASK”とその諸機能

前節で言及したように、本学における学生のキャリア教育・キャリア形成支援は、EQ教育系やキャリア教育系の講義群をはじめ、教務部による学修指導、学生支援センター（学生生活支援室、進路支援室）による厚生補導・就職支援、そして、ダブルアドバイザーによるキャリア形成支援などによって、多面的に実施されている。この部局の異なる職員や教員によってそれぞれ独立におこなわれてきたキャリア形成支援を、効果的かつ効率的に協働させることを狙いとして、サイバーキャンパスを背景に考案され整備されたインフラが、CASK と呼ばれる学生データベースシステムである。CASKが内包する機能は次の3点になる：

(1) 「学生カルテ」機能：学生の基本情報に加え、「学修への取り組み」や「クラブ活動・学生生活」など、ダブルアドバイザーが面談をとおして得た当該学生についての「気づき」や、与えた「アドバイス」「指導内容」等を保存する（この内容は学生サイドからは閲覧不可）。

(2) 「ポートフォリオ」機能²⁾：EQ教育系科目やキャリア教育系科目の履修

2) ポートフォリオは、学生が日々の学習活動や課外活動の成果、作成したレポート、論文、作品などを蓄積する「紙ばさみ」的なものを意味する。学生は、絶えずその中身をのぞき、加筆修正し充実させていく習慣を付けることによって、自分自身をみつめる機会を得るとともに、自分を他者にアピールするための材料をそこに蓄積しておく場所となる。平成20年3月の中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて』においてとりあげられたのをきっかけに、多方面で話題にのぼるようになってきた【2】。近年ではオープンソース・ソフトウェアMaharaなども登場し、導入の試みが広まってきている【3】。学習到達目標×各段階といったマトリックスで学生の取り組み成果物を整理・管理する応用例などもある【4】。

およびゼミ活動等、学生生活全般を通して得たキャリア形成に関する気づきを、与えられたテーマに関連づけ、学生自らが自由に綴り蓄積しておくことのできる場所を提供する機能。蓄積されたデータ（及びそれらに対する教職員のコメント）は、3・4年次以降の就職活動においてエントリーシートや履歴書を書く上で、直接役立つことができるようマトリックス型【4】のインターフェイスを応用して設計されているのが本学の“CASKキャリアポートフォリオ”の特徴である。

(3)「コミュニケーションツール」機能：「学修生活に関する相談」や「ポートフォリオ作成」ひいては「エントリーシート」や「履歴書」の作成などを介して、学生とダブルアドバイザーやEQ教育・キャリア教育・ゼミ等の担当教職員とのコミュニケーションの場を提供する。

CASKは、これらの機能をとおして蓄積される学生各自のキャリア発達に関する諸情報を“データベース化して一元管理”し“教職員間で共有する”ことによって、科目担当教員をはじめ各部局の職員やアドバイザーのおこなう諸指導の連携を強化し、それらを有機的に結び付け相乗効果を得ることを目的として考案された。このアイデアは、平成21（2009）年度文部科学省大学教育・学生支援推進事業に採択されて財政的支援を得、当該年度の末からその構築が始められた。昨年度、平成23（2011）年度が、その完成年度にあたり、本格的運用が今年度から始められた。

以下において、本学のキャリア形成支援体制における（上述した（1）～（3）を中心とする）CASKの役割について、図を参照しながら順次説明を加えていく。

基本的学修データの公開：学生の成績や履修状況を含む個人情報（“CC21”³⁾と呼ばれるデータベースに格納され、教務部職員によって一元的に管理されている（所属クラブや奨学金その他一部の付加的情報は学生部によって入力される）。教員や他の部局の職員そしてアドバイザーも、直接これを参照す

3) Campus Core 21 の略、旧来の事務電算システムが扱っていたデータベースを平成19（2007）年度からリニューアルし、「21世紀」にちなんで、この名称“CC21”を使うようになった。

ることはできない。しかし、アドバイザーやゼミ指導教員にとって、担当学生の履修指導やキャリア形成支援をおこなう際、不可欠となるデータも少なくない。そこでCC21とは別に、アクセスを学内限定としパスワード管理する新たな公開サーバ（CASK）を置き、学生DBの一部を同期させる仕組みを導入した。公開

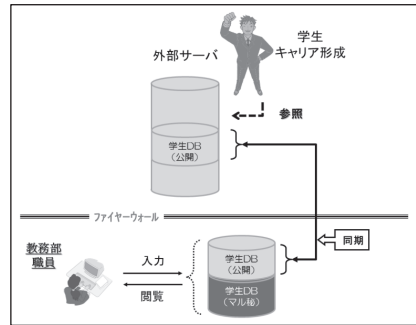


図2-1 学修情報の外部サーバーへの公開

するCC21のデータは、学生の基本的個人情報（氏名、学籍番号、出身高校、入試区分、・・・等）に加え、これまでに履修した科目と単位数（優良可などの成績は非公開）、それに加え、今後卒業までに必要となる単位数（総合科目・専門科目、必修・選択必修・選択など、その内訳）とした。

アドバイザーによる学生カルテ：ダブルアドバイザーは固有のパスワードで公開されている担当学生のデータを参照することができ、また面談によって得た個々の学生に対する気づき、指導内容などを書き込み「カルテ」として残していく。その内容については学生本人は参照することはできない。

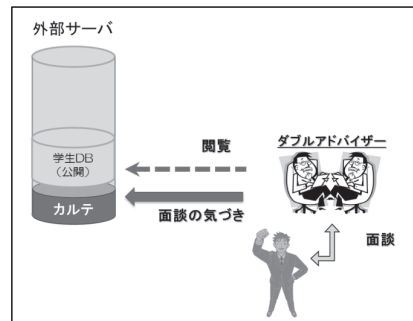


図2-2 ダブルアドバイザーによるカルテ作成

ポートフォリオ：学生は固有のパスワードでCASKにアクセスして自分自身の学修データを閲覧し、キャリア形成に役立てることができる。また、EQ教育系・キャリア教育系講義（教養ゼミ・専門ゼミを含む）の担当教員やダブルアドバイザーの指導のもと、学生生活を送るなかで自主的に、CASKに

アクセスし、「EQ自己診断」や「キャリア目標」等に関連する15項目に関して、自分自身を見つめ考えた内容を『ポートフォリオ』として蓄積していく。

一方、このポートフォリオには、蓄積された「自分自身のデータ」を別の角度から整理しなおすことによって、「エントリーシート」や「履

歴書」執筆の練習をおこなえる機能をも備えている。この機能の詳細については、§ 3及び§ 4において、具体的使用例とともに紹介する。

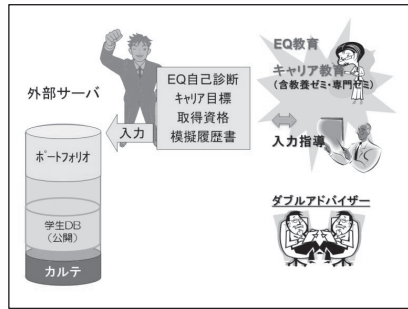


図2-3 ポートフォリオ機能

コミュニケーション：CASKには学生がアドバイザーやゼミ教員等と気軽に意見を交換しコミュニケーションをおこなえる機能が付加されている。また

この機能を活用すると、指導教員やダブルアドバイザー教職員は、担当学生の手いたポートフォリオを添削しアドバイスを送ることができ、また学生はそれを参考にポートフォリオに加筆・修正をおこなうことができる。

またこのプロセスは、そのレコードが時間軸に沿って記録に残さ

れるよう設計されており、学生と教職員のコミュニケーションの可視化による効果の向上と利用の促進が図られている。

進路支援室における就職指導への活用：以上のような全学を挙げたキャリア教育・キャリア形成支援をとおして、CASKには、学生各自の「自分史」が綴られていく。このデータは、進路支援室職員や就職講座担当教員等によ

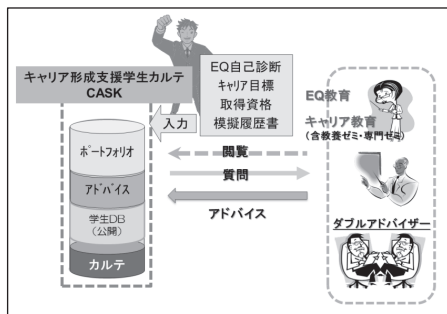


図2-4 アドバイス&コミュニケーション機能

2012年12月 岡野啓介・兼重宗和・石川英樹：キャリア形成支援学生カルテ（CASK）
 て、後の就職活動における進路決定や、エントリーシート・履歴書の執筆指導に有効に利用されることになる。

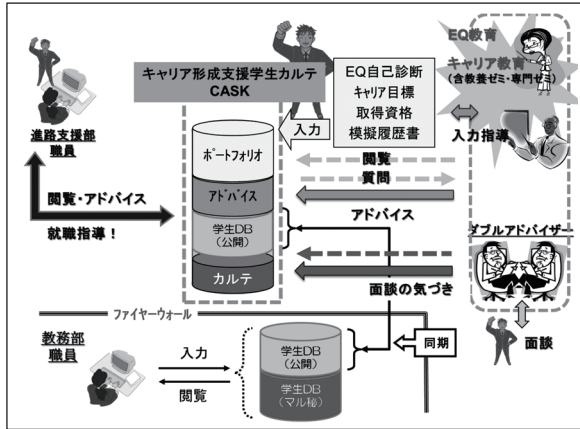


図2-5 CASKと就職活動支援

§ 3 ポートフォリオ、その機能と構造

本節及び次節では、ある学生（学籍番号：m20105、氏名：野村哲也⁴⁾）を主人公とし、彼の学生生活におけるキャリア形成とCASKとの係りをシナリオ化して紹介し、CASKに内装されたポートフォリオ機能とその具体的利用法の解説を試みる。

入学して間もない野村君は、まず教養ゼミIの授業で、担当教員から「徳山大学のキャリア教育」と題する講義を聞かされる。そして各自のキャリア発達にとって徳山大学が開発したCASKと呼ばれるデータベースの活用が特に大切であることを知る。そこで早速、与えられた固有のアカウントとパスワードでログインを試みる（図3-1）。就職支援タグをクリックすると図3-2

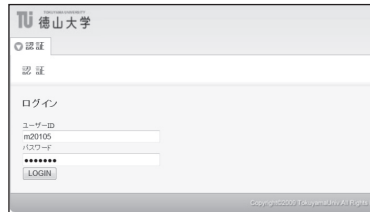


図3-1 CASKのログイン画面

4) この学生は、経済学部経営学科に在籍した本学の卒業生である（巻末の謝辞参照）。

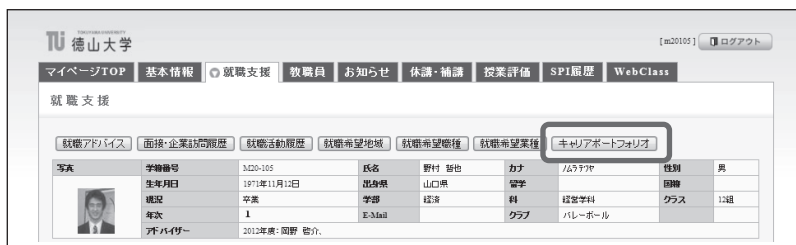


図 3-2 キャリアポートフォリオへの入り口

のような表示があらわれる。このページの一番右端にある「キャリアポートフォリオ」ボタンをクリックするとあらわれる以下の画面が、CASKキャリアポートフォリオへの入り口となるインターフェイスである：

図3-3からわかるように、ポートフォリオは15×8のマトリックス構造になっている。横方向の15系列には、学生各自が学生生活の種々の局面におい



図 3-3 CASKキャリアポートフォリオのインターフェイス
(系列と項目の詳細については後出の表3-1・2を参照)

て「自分自身を見つめ」「感じたこと」を自ら書き溜めていく作業を補助するためのテーマが割り振られている。このテーマは大別すると「EQ自己診断」「学業と大学生活」「将来」「就業体験・その他」の4つの部門からなる。各テーマの詳細は以下のとおりとした：

表3-1 各系列に割り当てられたレポートのテーマ

		テ ー マ	
EQ自己診断	自己理解&セルフエクス &チーム	1	あなたの長所（強み）と短所（克服すべき弱点）
		2	自分の持ち味を活かして他者（やグループ）に役立つ役割を果たし、自信を得た経験について
	他者理解&コミュニケーション	3	あなたは相手の能力や気持ちや意図をくみ取る努力をしていますか。また相手からのフィードバックによって自分について考え直したことがありますか。具体的な経験をもとに記述してください
		4	具体的な事例をあげて、あなたのコミュニケーション力について自己評価して下さい（良い点・不得意な点）
	チームビルディング&リーダーシップ	5	大学生活で他の学生（やグループ）と協働して問題解決に取り組んだ具体的な事例を挙げ、そこであなたが果たした役割を分析して下さい。あなたはその役割を自主的・貢献的に果たしましたか？
		6	チームで協働して取り組んだ事例のなかで、あなたがリーダーとしてメンバーをまとめ、チーム全体の意思決定を取り仕切った経験について記述してください。その時、他のメンバーとのコンセンサスはとれていましたか？
学業と大学生活		7	自由時間の過ごし方について
		8	授業の勉強以外に力を入れてきたこと、これから力を入れたいこと（クラブ、サークル、ボランティア、その他）
		9	これまでに取得した資格、またこれから取得したい資格について
		10	最近興味を感じているテーマについて（大学での学び・社会での問題・趣味など何でも）
		11	大学で専門的に研究してみたい、またはしている、テーマについて
将来		12	大学四年間で目指したいと思っていること
		13	将来の夢について
就業体験・その他		14	アルバイトやインターンシップで取り組んだ仕事の内容とそこで果たした役割、またそこで苦労したことや得たものなど
		15	これまでの人生で、失敗したことや自分の思い通りにいかず悩んだこと、など。またそれをどのようにして克服したか、できなかったか

さて野村君は、教養ゼミⅠで出された宿題、「あなたの長所（強み）と短所（克服すべき弱点）」の執筆に取り組むため、リンクボタンに



図3-4 レポートの入力画面へ

なっている各系列の「レポート・テーマ」の一番目①をクリックする。そこであらわれる画面が図3-4であり、これまで、このテーマへの書き込みが無いことを示している。そこで【新規】ボタンを押して入力画面を出し、入力を完了後【確認】【登録】ボタンを押すと、下図のような表示を得る：

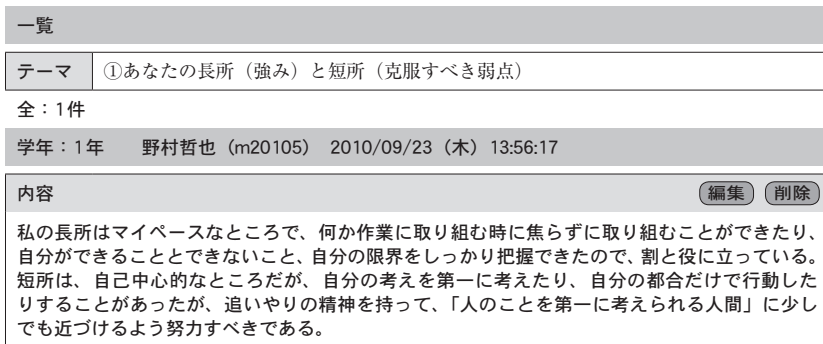


図3-5 レポートの入力終了後

このレポートには、入力時の日時・時刻や学生の学年なども自動的に記録される。入力後のレポートに対し再編集や削除をしたいときには【編集】【削除】のボタンを利用しておこなうことができる。

このような学生の書き込みがあると、CASKを介して担当の指導教員やダブルアドバイザー教職員には書き込みがあったという事実が報告される。そこで、担当教職員はその内容を参照し、それに対するコメントや添削した結果を書き込むことができる。その結果は、以下のような形で図3-5の後に続けて表記される：

教職員：兼重宗和 2010/09/30(4) 10:28:49

コメント

コメントに基づくリライト

1つのセンテンスが長くなりすぎると、主語と述語の関係が分かりにくくなり、読みづらい文章になることが多いです。例、第1センテンスの最後「割と役に立っている」の主語は何ですか？もう少し短く切って分かり易い文章にする努力を！ 第2センテンス、「追いやり」→「思いやり」？

【第1センテンス添削例】私の長所はマイベースなどところである。どんな作業に取り組む時でも、あまり焦らずに仕事を進めることができる。また、「自分ができることとできないこと」「自分の限界」をしっかりと把握できていることが、私の強みといえる。

図3-6 担当教職員によって書き込まれたコメント

これを受けた野村君は、早速、上図の「リライト」ボタンを押して、コメントを参考にし、自分の書き込んだ文章を修正にかかる。【確認】【登録】の後、その結果は図3-5、図3-6に続く形で、以下のように表記される：

学年：1年 野村哲也 (m20105) 2010/09/30 (木) 11:06:17

コメントに基づくリライト

編集 削除

私の長所はマイベースなどところである。どんな作業に取り組む時でも、あまり焦らずに仕事を進めることができる。また、「自分ができることとできないこと」「自分の限界」をしっかりと把握できていることが、私の強みといえる。短所は、自己中心的なところだ。自分の考えを第一に考えたり、自分の都合だけで行動したりすることが多いのが反省すべき点である。思いやりの精神をもって「人のことを第一に考えられる人間」に少しでも近づけるよう努力していきたい。

図3-7 コメントを参考にして修正した内容

図3-3「CASKキャリアポートフォリオのインターフェイス」に戻ろう。15系列に配置されたテーマに対し、上述のようにして学生がレポートを記入した場合、その系列上にある「○」印は、「●」印に自動的に変化するよう設計されていることに注目いただく⁵⁾。

野村君は、1年次、前述した「教養ゼミⅠ」において①【長所（強み）と短所（克服すべき弱点）】を、またダブルアドバイザーの指導をとおして⑧【授業の勉強以外に力を入れてきたこと】を、そして2年次になって受講した「インターンシップ」において⑭【アルバイトやインターンシップでの就業体験について

5) 「コメント」や「コメントに基づくリライト」は完了してなくても、学生が何らかのレポートを記入した段階で「○」は「●」に変化するよう設計されている。

て】を、といった具合に、3つのテーマに対しレポートを提出してきた。図3-3のインターフェイスには、その状況が、①⑧⑭の系列の「●」に反映されている。また、教科担当の教員やアドバイザーも積極的にこのポートフォリオに基づくキャリア形成支援に取り組んでいるようで、野村君の書き込みに対しては、総てにコメントが寄せられている。参考の為、⑧と⑭に対する野村君と教員・アドバイザーのやり取りの結果を資料1及び2として、巻末に添付しておく。

初年次から実施されるEQ教育系やキャリア教育系の授業では、それぞれの担当教員が協力し、各々の教科内容に関連したテーマを適宜取り上げてレポート執筆を課題として課し、学生がこのポートフォリオを利用するよう習慣付けていく必要がある。一方学生側は、クラブ活動・アルバイト・インターンシップ等、学生生活の諸々の局面で自分自身を見つめ考えるようにし、その気づきを、これら15系列の質問に答える形で綴っていく習慣を付けることも肝要である。それによって、後述するエントリーシート作成におけるポートフォリオの活用が、より一層充実したものになる。

§ 4 ポートフォリオを活用したエントリーシート作成支援

3年次終盤に差し掛かると、いよいよ学生は学生生活での成長の成果を企業に提出する履歴書やエントリーシートの執筆を通じて最大限に表現する必要に迫られる。自分自身の成長の軌跡をたどり、文章としてまとめねばならない。しかし、現実就職活動中の学生にエントリーシートや履歴書の作成を指導していると、「書くべき内容を思いつかない、思い出せない」「書けない」という学生に多く出くわす。

それに対して、前節までのレポート作成の手順に従い、学生が平素より自己分析や在学中の学びに関する成果を文章化しポートフォリオに蓄積していれば、保存された文書を材料として履歴書やエントリーシートの文章を完成することが容易となる。本節では、履歴書やエントリーシート作成に向けたポートフォリオの最終活用段階における機能と手順を解説しよう。

まず、CASKキャリアポートフォリオのインターフェイス（図3-3）において、縦方向に並べられた「8項目」（表4-1にその内容を列挙した）に注目する。

エ ン ト リ ー シ ー ト 項 目	(1)	研究課題または得意な科目
	(2)	学生時代に打ち込んだこと
	(3)	自己PR（得意なこと、長所など）
	(4)	趣味、資格、免許等
	(5)	あなたの弱み（短所）は
	(6)	これまでどんな就労体験をしたか
	(7)	失敗体験・失敗を乗り越えた経験は
	(8)	あなたは将来どのような仕事をしたいか

表4-1 エントリーシート項目

これらはいずれも、多くの企業がエントリーシート等で執筆を求めてくるテーマである。とりわけ(1)～(4)は、本学所定の履歴書に記入欄が用意されている項目でもあり、総ての学生にとって必須の内容だと言える。

一般に、学びのためのeポートフォリオは学生本人と指導者等の第三者の視点から「学習到達目標」と「到達目標項目」を可視化し、目標設定と振り返りを促進するために構築される場合が多い。そのため、学びの成果物をマトリックス形式で整理する先進事例が多い。中でも顕著なのは「到達目標項目」×「学習到達目標」のマトリックスによる整理である【4】。それに対して、本学CASKキャリアポートフォリオは同様にマトリックス形式を採用しているものの、「到達目標（=エントリーシート項目の表現）」×「目標達成のための構成要素」のマトリックス構造となっている。到達目標を様々な側面から要素分解し、その各要素を積み重ねることで目標に到達する取り組みを支援するという発想である。そうした点から、本学のCASKキャリアポートフォリオはユニークな構造だと言えよう。

さて、3年生となった野村君は、現在「専門ゼミⅠ」の授業において履歷

書の書き方の指導を受け、CASK キャリアポートフォリオ（図3-3）に向かっている。前節の最後に説明したとおり、野村君は2年間の学生生活をとおして、すでに、①【長所（強み）と短所（克服すべき弱点）】⑧【授業の勉強以外に力を入れてきたこと】⑭【アルバイトやインターンシップでの就業体験】についてレポートを書き込んでいる状況である。

そこで、専門ゼミⅠの担当教員から、エントリーシートにあらわれる代表的な質問項目として「自己PR」に関する文章を書くよう求められた野村君は、早速、図3-3のマトリックスにおいて、エントリーシート項目の第3行目にある【自己PR（得意な事、長所など）】をクリックする。野村君がこのページを開くのはこれが最初で、まだ、書き込みは何も無い。

項目	自己PR（得意なこと、長所など）
<input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="新規"/>	
全：0件	
【参考にできる事項】 <ul style="list-style-type: none"> ●私の長所はマイペースなところである。どんな作業に取り組む時でも、あまり焦らずに仕事を進めることができる。また、「自分ができることとできないこと」「自分の限界」をしっかり把握できていることが、私の強みといえる。短所は、自己中心的なところだ。自分の考えを第一に考えたり、自分の都合だけで行動したりすることが多いのが反省すべき点である。思いやりの精神をもって「人のことを第一に考えられる人間」に少しでも近づけるよう努力していきたい。 ●バスケットボールに最も力を注ぎました。インターカレッジ出場を目標に多くの厳しい練習に懸命に取り組みましたが、当初はレギュラーに選ばれず挫折感を味わいました。しかし、それをバネに人一倍練習を重ね、次第に試合への出場機会を得ることができました。挫折感を乗り越えたこの経験は、私が大学で得た貴重な財産の一つです。 ●レンタル用品関連の店舗での接客のアルバイトを経験し、仕事の基本を学びました。組織で働くために必要な協調性やコミュニケーションの大切さを実感しました。特に、接客や上司・同僚とやりとりを通じて、コミュニケーション力が高まったと思います。毎日、売上の目標値が課せられ、それが達成できた時には働くことに対する充実感を感じることができました。 	
内容	必須
<input type="button" value="リセット"/> <input type="button" value="確認"/>	

図4-1 エントリーシート項目の入力画面へ

図4-1において、【参考のできる事項】に書かれている内容は、野村君が1年次・2年次において系列①⑧⑭の質問事項に答えて書いたレポートの内容である。アドバイザー等のコメントを基にリライトをおこなっている場合には**リライトされた内容**が、おこなわれていない場合は**元の内容**が表示される。

そこで野村君は、図4-1の左上にある【新規】ボタンをクリックして入力画面を呼び出し、【参考のできる事項】に表示された自分の文章を参照しながら、「自己PR」の文章を作成する。必要に応じて、【参考のできる事項】にある文章をもとにコピー／ペーストをしたり、要約したり、新たな情報を加えたりしながら作業を進めることになる。この段階においても、要約したり、文章の接続を考えたりする作業が最低限必要で、学生にとって必ずしも楽なものではないだろう。とは言え、既に書くべき材料は画面上に整理されている。少なくとも「何を書いて良いのかわからず、書けない」といった、よくありがちな状態に陥ることはない。

文章が完成して【確認】【登録】のボタンを押すと、ポートフォリオへの保存が完了する。図4-2は、野村君による作業の結果、文章入力が完成した状態を示す。

項目	自己PR（得意なこと、長所など）
戻る	新規
全：1件	
学年：3年	野村哲也（m20105） 2012/10/4（木） 11:06:17
私の長所はマイペースなところで、どんな作業に取り組む時でも、あまり焦らずに仕事を進めることができる。また、「自分ができることとできないこと」「自分の限界」をしっかり把握できていることが、私の強みといえる。また、バスケットボールに最も力を注ぎました。インターカレッジ出場を目標に多くの厳しい練習に懸命に取り組みましたが、当初はレギュラーに選ばれず挫折感を味わいました。しかし、それをバネに人一倍練習を重ね、次第に試合への出場機会を得ることができました。挫折感を乗り越えたこの経験は、私が大学で得た貴重な財産の一つです。さらに、レンタル用品関連の店舗での接客のアルバイトを経験し、仕事の基本を学びました。組織で働くために必要な協調性やコミュニケーションの大切さを実感しました。	

図4-2 エントリーシート項目の入力終了後

こうして学生がエントリーシート項目についての文書を登録すると、レポートの作成時と同様、担当の指導教員やダブルアドバイザー教職員には書き込みがあったという事実が自動的に通知される。なお、図3-3のマトリクスにおいて、エントリーシートの項目名を示す第一列の右側に「☆」印が並んでいるが、学生が文章の登録をした場合、該当する項目の「☆」は「★」に自動的に変化するように設計されている。したがって、この部分からも項目別に文章作成の有無が把握できる。

学生が書いたエントリーシート項目の文章に対して、担当教職員はコメントや添削した結果を書き込むことができる。担当教職員がコメントを書き込んで登録すると、図4-2の「内容」欄の下に図4-3が表示される。

コメント	教職員：石川英樹	2012/10/09(火) 02:28:49	コメントに基づくリライト
<p>「である調」と「です・ます調」が混ざってます。統一して下さい。 長所について、バスケットボールへの取り組み、アルバイトの3つそれぞれのつなぎの部分に少し言葉を補うと、より読みやすい文章に改善できると思います。たとえば、「また、バスケットボールに最も力を注ぎました。」の前に、「大学では」などを加えれば、よりスムーズにつながると思います。</p>			

図4-3 教職員によるコメントの入力

続いて学生は、教職員により付されたコメントを見て文章を改善する。図4-3の右上の「コメントに基づくリライト」ボタンを押すことで書き直しのための記入欄を表示させ、コメントを参考にしながら自分の文章を修正する。その結果は、画面には図4-3の下に続く形で図4-4のように表示される。

コメントに基づくリライト	学年：3年	野村哲也 (m20105)	2012/10/11 (木) 11:25:26	編集	削除
<p>私の長所はマイペースなところ です。どんな作業でもあまり焦らずに仕事を進めることができます。常に落ち着いて、「自分ができることとできないこと」「自分の限界」をしっかりと把握できます。大学では、バスケットボール部に属しインターカレッジ出場を目標に多くの厳しい練習に懸命に取り組みました。当初はレギュラーに選ばれず挫折感を味わいましたが、それをバネに人一倍練習を重ね、次第に試合への出場機会を得ることができました。この経験は私が大学で得た貴重な財産の一つです。また、アルバイトとしてレンタル用品関連の店舗での接客の仕事を経験し、組織で働くために必要な協調性やコミュニケーションの大切さを学びました。毎日、売上の目標値が課せられ、それが達成できた時には充実感を感じることができました。</p>					

図4-4 教職員からのコメントをもとにした文章の修正

このようにして、野村君は「自己PR（得意なこと、長所など）」についての文章を完成することができた。この文章をもとにして、実際のエントリーシート（または履歴書）に「自己PR」についての記述を清書し、企業に提出することになる。以上のCASKにおける学生と担当教職員との一連のやりとりは、連続したインターフェイス上でなされる。参考のために、その連続の表示を資料3として巻末に添付した。

就職活動において、学生は履歴書、エントリーシート、面接試験などを通じて、大学生活における学びの成果を余すことなく表現し、相手に自分という人間の可能性をアピールする必要がある。しかし、多くの学生は就職活動に差し掛かっても、表現すべき内容が出てこないと悩む。平成22年度より本学4年生の卒業時に実施している進路アンケートにおいても、就職活動時に困った点としてもっとも選択率が高かったのは「エントリーシートが書けなかった」という選択肢であった。

問題は、表現すべき内容は存在するにもかかわらず、それらが記録されていないという点にある。当初は「書く内容がない」と言っていた学生も、エントリーシートの作成を指導する中で話をしていると、PRすべき内容が少しずつ出てくる。単に忘れていたり、PRすべき点に気付いていないだけなのである。

こうした状況は、これまで解説してきたCASKキャリアポートフォリオを活用することで大いに改善可能である。教職員のアドバイスも交え、学生が大学生活の様々な場面での学びの成果等について日頃から考え、文章化する。それをポートフォリオで整理し蓄積するよう指導するのである。学生の就職活動をより実りのあるものにするために、CASKキャリアポートフォリオは大きな可能性を秘めていると言えよう。

§ 5 おわりに

本学において、サイバーキャンパスを背景に構築された学生データベースCASKは、(1) 学生カルテ、(2) ポートフォリオ、そして (3) 学生と教

職員の双方向コミュニケーションの3つの機能を持ち、学内の全教職員が協力して学生のキャリア形成を支援する体制の確立に供するものである。この小論では、このCASKの諸機能についてのまとめと平易な解説を前半の目的とした。後半ではCASKに内包された「ポートフォリオ」機能に焦点をあて、そのねらいや構築にあたってのコンセプトから利用法の詳細にいたるまでの解説を目的とした。特に § 3 および § 4 では、ポートフォリオに含まれるレポート課題に対する学生の書き込みから、それに対する担当教員やアドバイザーのコメント、そのコメントに応じた学生のリライトまでのプロセス、そしてそれが最終的に学生のキャリア形成支援からエントリーシート作成支援へと繋がっていくプロセスのシナリオを創作し、その演出をとおしてCASKポートフォリオの解説を試みた。ここで提示した一例から一人でも多くの教職員がポートフォリオ利用の効果を理解し、CASK利用促進の一助となれば幸いである。また現状では、このポートフォリオのインターフェイスに関しては、まだまだ改良の余地が多く残されていると言わざるを得ない。この小論を契機として、今後の改良の議論を巻き上げていくことができれば考える。

謝 辞

CASK構築は、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」(平成21年度～平成23年度)による財政的支援の下で実施された事業である。システム構築を請け負った、本学の卒業生で現在(有)ティー・エヌ・ライフシステムズの社長でもある野村哲也氏は、本学がめざすキャリア形成支援のコンセプトを深く理解し、同社のプログラマー實成浩司氏(同じく本学卒業生)と共に、我々の要求を快く受け入れつつ献身的にシステム構築に協力いただいた。ここに深く感謝する。

参考文献

- 【1】 岡野啓介、兼重宗和、石川英樹「徳山大学のキャリア教育－CASKを中核とするキャリア形成支援体制の構築－」徳山大学論叢 第73号（2012）p.143－p.174
- 【2】 中央教育審議会大学分科会制度・教育部会（2008）『学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）』、
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/080410.htm（2012年9月30日確認）
- 【3】 村山光博（2010）「就職支援活動におけるキャリア・ポートフォリオの活用－オープンソースeポートフォリオMaharaの導入－」、『生涯学習研究年報』第4号（通巻第13号）、長岡大学生涯学習センター、p.55－59.
- 【4】 地域科学研究会・高等教育情報センター（2010）「授業・学習活動の進化とポートフォリオⅡ～地域科学研究会・高等教育情報センター 教授法・FDシリーズ20」配付資料

資料1：学生入力、教職員コメント、コメントに基づく学生のリライト、の
 総ての作業が終了した時点における、テーマ⑧（系列⑧）の表示内容例：

テーマ	⑧授業の勉強以外に力を入れてきたこと、これから力を入れたいこと（クラブ、サークル、ボランティア、その他）
全：1件	
学年：1年	野村哲也（m20105） 2011/02/07（月）14:06:17
内容	私は、バスケットボールに最も力を注ぎました。厳しい練習で多くの練習量をこなし、インターカレッジに出場するため懸命に取り組みました。私は、試合の出場回数が他のメンバーと比べて少なく、挫折感を味わいましたが、練習を重ねることで、出場回数が次第に増え、周囲から認められるまでに成長でき、この挫折感の経験は私にとって貴重な体験談の一つです。
アドバイザー：岡野啓介	2011/02/09(水) 10:28:49
コメント	挫折感を乗り越えた点を表現したことは、素晴らしいと思います。ただし、最後の文章が長すぎます。短く簡潔な文章を心掛けましょう。全体的にもう少し簡潔な表現にできます。たとえば、「厳しい練習で多くの練習量をこなし、……懸命に取り組みました」→「多くの厳しい練習に懸命に取り組み」などです。
学年：1年	野村哲也（m20105） 2011/02/11（金）11:25:45
コメントに基づくリライト	[編集] [削除]
バスケットボールに最も力を注ぎました。インターカレッジ出場を目標に多くの厳しい練習に懸命に取り組みましたが、当初はレギュラーに選ばれず挫折感を味わいました。しかし、それをバネに人一倍練習を重ね、次第に試合への出場機会を得ることができました。挫折感を乗り越えたこの経験は、私が大学で得た貴重な財産の一つです。	

注：最初、内容欄に表示されていた【編集】【削除】ボタンは、担当教職員がコメントを投稿した段階で消失する。またその後学生が、コメントに基づくリライトを完了した時点で【コメントに基づくリライト】ボタンも消失する！これは、登録確定後にこれらのボタンを利用することによっておこる矛盾を回避する為である。

資料2：同、テーマ⑭（系列⑭）の表示内容例：

テーマ	⑭アルバイトやインターンシップで取り組んだ仕事の内容とそこで果たした役割、またそこで苦労したことや得たものなど
全：1件	
学年：2年	学生：m20105 2011/06/07（火） 11:30:05
内容	
<p>お客さん相手のバイトをやっており、会社の仕事の基本を学びました。特に、正社員さんや他のバイト員と組んでの働き方はよくわかりましたし、お客さんとの話し方も大変勉強になりました。そのやりとりが仕事の中で多くて、コミュニケーションの力は伸びたと思っておりますが、それと毎日ノルマがあって、それが達成できた時に自分としてはかなり充実感を感じております。</p>	
教職員：兼重宗和	2011/06/10(金) 10:28:49
コメント	
<p>仕事を通じて学んだり伸ばした内容（コミュニケーション力、接客法など）が書かれている点は良いと思います。</p> <p>アルバイトについては、何のアルバイトか具体的に書いて下さい。</p> <p>書き言葉として不適切な表現が目立ちます。「お客さん」→「お客様」、「バイト」→「アルバイト」、「ノルマ」→「目標値」などです。また、「〇〇さん」や「かなり」という表現も避けて下さい。「自分としては」という表現は、あまり自信がないように受け取られるのでやめましょう。</p> <p>最後の文章が長すぎます。できるだけ短い文章で簡潔な表現を心掛けて下さい。</p>	
学年：2年	学生：m20105 2011/06/14（火） 15:06:17
コメントに基づくリライト	編集 削除
<p>レンタル用品関連の店舗での接客のアルバイトを経験し、仕事の基本を学びました。組織で働くために必要な協調性やコミュニケーションの大切さを実感しました。特に、接客や上司・同僚とやりとりを通じて、コミュニケーション力が高まったと思います。毎日、売上の目標値が課せられ、それが達成できた時には働くことに対する充実感を感じることができました。</p>	

資料3：同、エントリーシート項目(3)の表示内容例：

項目	自己PR (得意なこと、長所など)		
戻る	新規		
全：1件			
内容	学年：3年	野村哲也 (m20105)	2012/10/4 (木) 11:06:17
<p>私の長所はマイペースなところで、どんな作業に取り組む時でも、あまり焦らずに仕事を進めることができる。また、「自分ができることとできないこと」「自分の限界」をしっかり把握できていることが、私の強みといえる。また、バスケットボールに最も力を注ぎました。インターカレッジ出場を目標に多くの厳しい練習に懸命に取り組みましたが、当初はレギュラーに選ばれず挫折感を味わいました。しかし、それをバネに人一倍練習を重ね、次第に試合への出場機会を得ることができました。挫折感を乗り越えたこの経験は、私が大学で得た貴重な財産の一つです。さらに、レンタル用品関連の店舗での接客のアルバイトを経験し、仕事の基本を学びました。組織で働くために必要な協調性やコミュニケーションの大切さを実感しました。</p>			
コメント	教職員：石川英樹	2012/10/09(火) 02:28:49	
<p>「である調」と「です・ます調」が混ざってます。統一して下さい。 長所について、バスケットボールへの取り組み、アルバイトの3つそれぞれのつなぎの部分に少し言葉を補うと、より読みやすい文章に改善できると思います。たとえば、「また、バスケットボールに最も力を注ぎました。」の前に、「大学では」などを加えれば、よりスムーズにつながると思います。</p>			
コメントに基づくリライト	学年：3年	野村哲也 (m20105)	2012/10/18 (木) 11:06:17 編集 削除
<p>私の長所はマイペースなところです。どんな作業でもあまり焦らずに仕事を進めることができます。常に落ち着いて、「自分ができることとできないこと」「自分の限界」をしっかり把握できます。大学では、バスケットボール部に属しインターカレッジ出場を目標に多くの厳しい練習に懸命に取り組みましたが、当初はレギュラーに選ばれず挫折感を味わいましたが、それをバネに人一倍練習を重ね、次第に試合への出場機会を得ることができました。この経験は私が大学で得た貴重な財産の一つです。また、アルバイトとしてレンタル用品関連の店舗での接客の仕事を経験し、組織で働くために必要な協調性やコミュニケーションの大切さを学びました。毎日、売上の目標値が課せられ、それが達成できた時には充実感を感じることができました。</p>			
【参考のできる事項】			
<ul style="list-style-type: none"> ●私の長所はマイペースなところである。どんな作業に取り組む時でも、あまり焦らずに仕事を進めることができる。また、「自分ができることとできないこと」「自分の限界」をしっかり把握できていることが、私の強みといえる。短所は、自己中心的なところだ。自分の考えを第一に考えたり、自分の都合だけで行動したりすることが多いのが反省すべき点である。思いやりの精神をもって「人のことを第一に考えられる人間」に少しでも近づけるよう努力していきたい。 ●バスケットボールに最も力を注ぎました。インターカレッジ出場を目標に多くの厳しい練習に懸命に取り組みましたが、当初はレギュラーに選ばれず挫折感を味わいました。しかし、それをバネに人一倍練習を重ね、次第に試合への出場機会を得ることができました。挫折感を乗り越えたこの経験は、私が大学で得た貴重な財産の一つです。 ●レンタル用品関連の店舗での接客のアルバイトを経験し、仕事の基本を学びました。組織で働くために必要な協調性やコミュニケーションの大切さを実感しました。特に、接客や上司・同僚とやりとりを通じて、コミュニケーション力が高まったと思います。毎日、売上の目標値が課せられ、それが達成できた時には働くことに対する充実感を感じることができました。 			